地域支え合い推進協議体

いっそう元気！東近江

かわら版
第９号
R1.11.11

第 10 回になる『いっそう元気！東近江』を令和元年７月 30 日（火）に開催。「誰もが、支援が必要かどうかに関わらず、可能な限り自立して心豊かに暮らし続けることができる地域づくりを進める」という目標を確認し合い、各プロジェクトの進捗を共有しました。
そして、住民と医療・福祉の専門職がつながるプロジェクトの寸劇を披露いただき、地域におけるつながりづくりについて意見交換。その後、『東近江市における第 2 層協議体』について、グループに分かれて考えました。

住民と医療・福祉の専門職がつながるプロジェクト
寸劇「退院後のくらし～あなたならどうする？～」

■寸劇を見て感じたこと
- 感動した！ここまで考えるのは大変だったと思う。
- 専門職と住民が関わっている様子が良かった。
- つながりあり編は、地域としても専門職としても理想的。こんな地域をつくっていけると良い。
- 地域とつながりたくない人をどうやって支えるか…実際はつながりがない人も多い。つながりがある人でも、支援者が入ることで地域が引いてしまうこともある。

■寸劇を作成し、演じて感じたこと
- つながりがあっても、なくても地域で暮らせることが大事。「つながりがないとダメ」とならないように配慮した。

懇談「リハビリが必要な方の退院後の暮らしと地域でのつながりづくり」

■住民と医療・福祉の専門職のつながり
- 自分は、移送ボランティアの活動でケアマネと顔見知りになり話す機会ができたが、機会がないと個人情報もあり、深く情報交換はできない。
- 地域の人は、隣近所の人のことを結構見ている。日頃の見守りで気づいたことを、専門職や民生委員などにつなぐことで、困りごとの解決につながる。
互いに顔の見えるつながり、日頃から相談し合える関係があるとよい。
- 寸劇に出てきたような会議に民生委員が呼ばれることは少ない。民生委員が全て担うことができない、地域や専門職など多様なつながりがあることが大切。

- 住民も専門職とのつながりは大事だと分かっていても機会がない。声をかけてもらうと関わるきっかけができる。
また、情報交換することで、住民として支援が必要な人への関りどころが見えてくると思う。
- 退院後、急に専門職から地域へ声をかけても関わりが難しい
入院中から退院を見据えた関りをもっておけると良い。

発行：社会福祉法人東近江市社会福祉協議会

■企業や福祉以外の事業所とのつながり

・企業にもできることがある。その力を活かすことが必要。
・生協の個配や弁当を毎日注文する方などは、職員と顔を合わす機会が多いため、職員が変化に気づくこともある。
・色々なｻｰﾋﾞｽを知り、使い慣れることは豊かに暮らす上で大切。

■地域の居場所への専門職の関わりとつなぎ直し

・退院された方がサロンなどに行く際に、ヘルパーやリハビリ担当が一緒に行くことで、サロンとしても受入しやすくなる。

■地域における見守りの中で…

・「おせっかい」は大事。日頃のお裾分け、声かけから、困りごとも見えてくる。今ある関係を大切に強めることが大事。
・近所付き合いがない人を、地域でそっと見守っている人もいる。きっかけがあれば、つながれるかもしれない。
・「こんなことしてくれはるで、頼んでみたら？」と近所の人が知っている資源を伝えられるつながりがあると良い。

懇談「東近江市における第２層協議体を考える」

■楽しくワイワイガヤガヤ話し合い、やりたいことから…

・固く考えるより、有志で集まり楽しくお互いにやりたいことを語り合える場になれば、継続していけそう。
・幅広い年齢層に入ってほしいが、若い人の巻き込みは難しい。飲み会など気楽な機会から、声を拾い上げるカタチも良い。
・住民が中心の第２層を考える上で、市社協のサポートなしでは難しい。

■多様な人が地域のことを話し合える２層にするために…

・院内リハでは、本人から「地域の〇〇に行きたい」などの発信がない限り地域とつながる機会がもてない専門職もいる。協議体のような場があれば、地域とのつながりを意識できる専門職はいると思う。
・団塊の世代など、福祉を切り口ではなく、その人たちが興味を持つテーマなら、多様な人が話し合えるのではないか。
・図書館には元気な高齢者がたくさん来られる。そんな人たちが地域の見守り役やボランティアとして活躍してもらえるようにできないか。
地域には特技などを持っている人がたくさんいる。
・楽しいと思える話し合いの場や取り組みには人が集まってくる。
・最初のきっかけ、関係づくりとして、お酒の場などから始めても良い！

■各地区で進む第２層の取り組み

・八日市では、まち協・地区社協・民児協・自治連・コミセンで集まって、どんな八日市にしていきたいか話し合っていく予定。すでに活動している人や団体が集う機会ができれば、一緒にできることが見つかるかもしれない。
・中野でも各団体が何をしているか情報交換することで互いの連携につながった。

発行：社会福祉法人東近江市社会福祉協議会